

被災地派遣レポート＜第116回＞

水道局水源管理事務所管理課 工藤 あかりさん

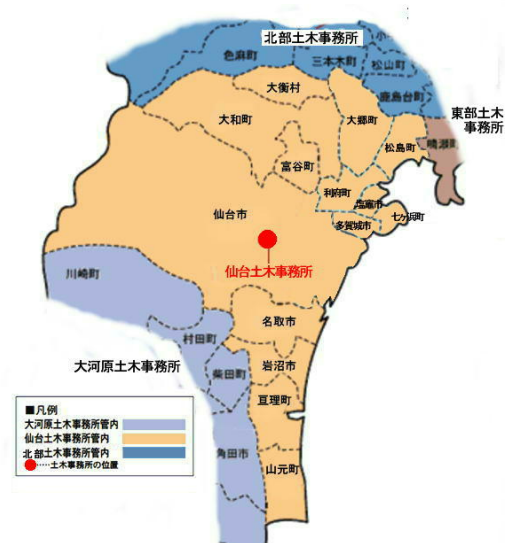
- 1 派遣先
宮城県土木部仙台土木事務所総務部用地第一班
- 2 派遣期間
平成25年4月1日から平成26年3月31日まで
- 3 担当業務
二級河川「坂元川」・「戸花川」 災害復旧事業に係る用地補償業務
- 4 派遣当初の現地及び派遣先部署の状況

(1) 現地の状況

私が担当した河川のある亶理郡山元町の沿岸部は、震災から2年が経過してなお、殆どが更地の状態であった。現地には基礎だけが残された住宅の跡、集積された瓦礫の山、河川・海岸堤防の破堤等が随所に見受けられる壊滅的な状況である。



(左) 常磐線坂元駅前（亶理郡山元町坂元）H25.4.4 撮影



(右) 「管内図」宮城県HPより
(<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/snd-doboku/kannaizu.html>)

(2) 派遣先部署の状況

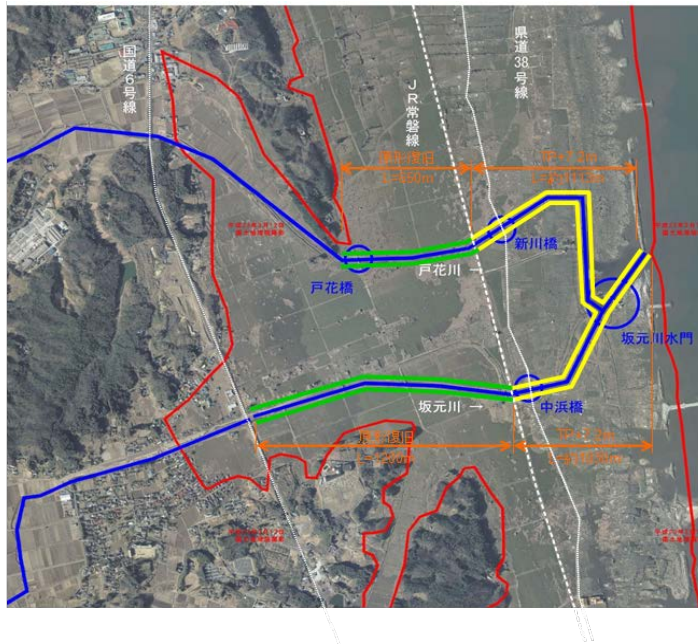
仙台土木事務所には、4月当初時点で15都県から31名の応援職員が派遣されており、プロパーの職員121名と合わせ総勢152名の職員が管内5市8町1村（「管内図」参照）の道路や河川の災害復旧及び整備・維持管理業務に従事していた。

5 担当業務の概要

坂元川・戸花川は、東日本大震災により河川堤防が大きく損壊し、護岸の流出や沈下、その付帯施設（樋管、橋梁、水門等）も壊滅的な被害を受けた。復旧にあたっては、津波制御

の方式をこれまでの水門方式から堤防方式へ見直し、河口からJR常磐線（既設）までの堤防高さを海岸と同じ高さ（T.P.+7.2m）で整備することとなった。これは、数十年～百数十年毎に起きている津波に対応したものであり、千年に一度と言われる最大級の津波に対しても粘り強さを発揮する堤防構造にする計画が策定された。また、JR常磐線（既設）から上流部で被災した堤防も、原形復旧する計画となった。

このため、広範囲に亘る用地買収が必要となり、要取得筆数は約150筆、地権者数は約100名に上った。



両事業とも4月に赴任した時点では、地元住民に対する事業説明会を終え、土地境界確認の作業中であったが、災害復旧事業を迅速に進めるため、国土調査成果点を復元し、地権者に対し図面や写真を郵送することで個別に境界確認して頂く方法を取った。

地権者の中には、被災によって亡くなられた方や、仮設住宅やその他避難先に移った方などが多数存在した。このため、地権者の居住地の確認については、山元町役場から情報提供を受け、連絡が取れない方には、直接訪問するなどの対応を取った。

用地交渉では、計画買収線の変更に伴う作業や他機関・他事業との調整により、計画自体がなかなか前に進まず、H25年度内には着手できない可能性もあった。しかし、何とか計画が固まり、H26年1月には契約会という形で交渉に着手することができた。契約会には、約半数の地権者の参加を得て、契約の締結が実現できた。

6 業務の遂行に当たって、苦労したこと、工夫したこと

災害復旧事業では迅速な用地買収が求められたが、その方法に特例はなく、通常通りの手続きを経なければならなかった。また、いくら急を要する事業であっても、用地補償は相手方の財産に関わることであり、信頼関係を築くことも大変重要であることから、慎重にならざるを得ない部分も多々あった。

そうした中で、どのようにすれば相手が心を開き説明を聞いてくれるか、そして、迅速に用地買収を進められるかということが、自分の中で大きな課題となった。こうした中、実際に取り組んだことが、地権者の負担軽減と拘束時間を短縮するために、説明会等にご足労いただく機会をできるだけ減らすことだった。その上で、資料を分かりやすくするために図や写真等を加え工夫を凝らした文書で説明することを心がけた。具体的には、用地買収について「個別説明会兼契約会」という形で地権者にお知らせをし、質問のある方、契約の意思のある方を分けて集めることが有効的であった。これにより、集まった地権者に対して、より効率的に対応することが可能となり、契約事務を迅速に進めることに貢献できたと感じる。

7 今後の都政に活かしたいこと、得られた教訓など

今回、山元町からの多大なご協力なしに、事業を進めることはできなかった。この体験から、基礎自治体との連携の重要性を痛感した。

また、災害復旧事業では第一に迅速さが求められると思うが、通常業務のやり方そのものに無駄があることにより、緊急時はさらに対応が困難になるということが分かった。普段からの仕事の効率化や緊急時を想定した仕組みづくりに努めることが大切であると実感した。今回の体験を都政においても活かしたいと思う。



(左) 撤去予定の坂元川水門 25.5.27 撮影



(右) 山元町との境界立会 25.9.26 撮影